

(3)スギ・ヒノキ植林

1)植物

スギ・ヒノキは三島市内の山地に広く植林され、特に中腹はほとんどがヒノキ植林地となっています。植林地では、94科311種の植物が確認されました。一般的にヒノキは斜面中腹から上部にかけて、乾燥した場所から適度に湿った場所まで広範囲に植栽されます。一方、スギは谷部や斜面下部から中腹にかけてのやや湿った場所に植えられます。

高木層⁽¹⁰⁾はヒノキ、スギのほかはあまりなく、低木層⁽¹²⁾や林床は十分に管理がなされていれば、その立地を好む様々な植物が生育しますが、森林が管理されず、木の密度が高い場合はとても暗くなり、生育する植物はわずかとなります。

スギ・ヒノキは日本の林業の中で最も重要な樹種で、木材生産のため、かつてはたくさん植林されましたが、最近では労働力不足のため、手入れのされない生育不良な植林地も多く見られます。



春 2002/4/3



夏 2002/7/9



秋 2002/10/10



冬 2003/1/9

(暮ヶ沢)

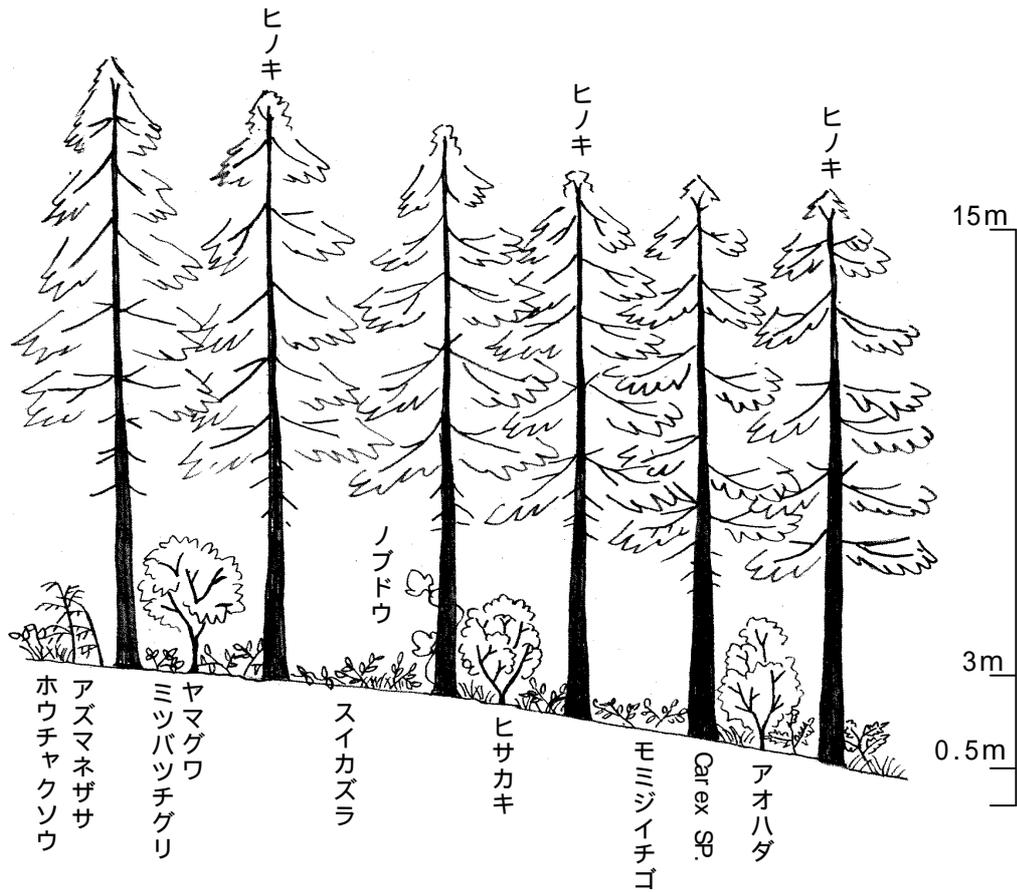


図 4-1-6 ヒノキ植林(墓ヶ沢)の模式断面図

ヒノキ(ヒノキ科)



全国的に植林されている代表的な植林樹種の一つで、高さ 30m 程になる針葉樹です。本来は、尾根や溶岩地などの極端に乾燥する場所に生育します。古来、この木をこすり合わせて火をおこしたことから、「火の木」という意味で、「ヒノキ」と名付けられました。材は、建築材、家具材などに使われています。

【撮影：2002/1/9 墓ヶ沢】

スギ(スギ科)



全国的に植林されている代表的な植林樹種の一つで、高さ 30m 程になる針葉樹です。本来は、乾いた尾根や湿った沢などの乾湿両極端な場所に生育します。真っ直ぐに成長するので、「直木(すき)」が転じて「スギ」となっています。材は、建築材、造船材、桶、酒樽などに利用されています。市内では、ヒノキほど多くないですが、湿性な場所に植えられています。

【撮影：2002/11/22 玉沢】

ハリガネワラビ(ヒメシダ科)



山地の樹林下あるいは原野等に生える高さ 30～90cm 程の落葉性のシダ植物です。長くて堅い葉柄⁽³⁹⁾を持つことから、「ハリガネワラビ」と名付けられました。市内では、山地の樹林下に見られます。

【撮影：2002/7/23 諏訪台】

ウラジロ(ウラジロ科)



日の当たる原野や林縁など、やや乾いた場所に群生する高さ 2m 程の常緑のシダ植物です。葉の裏が白いことから「ウラジロ」と名付けられました。葉を正月の飾りとする他、葉柄を編んで籠や盆を作ります。市内では、尾根周辺の乾燥した森林に見られます。

【撮影：2002/12/5 平成台】

リョウメンシダ(オシダ科)



山中樹林下の湿った所に群生する、高さ 80cm 程の常緑性のシダ植物です。葉の表裏両面がともに光沢のある緑色で、区別が付きにくいことから、「リョウメンシダ」と名付けられました。市内では、ケヤキ林やスギ植林下などの湿性な樹林下に見られます。

【撮影：2002/12/5 平成台】

モミジイチゴ(バラ科)



林縁や路傍などに生育する高さ 2m 程の落葉低木です。茎にはとげがたくさんあるので、モミジイチゴのやぶはとても歩きにくいです。3～5月に直径 3cm 程の白い花を下向きに咲かせます。市内では、植林地などの林縁で見ることができます。

【撮影：2002/4/10 諏訪台】

2)動物

スギ・ヒノキ植林では、哺乳類 5 科 7 種、鳥類 21 科 40 種、は虫類 4 科 4 種、両生類 3 科 4 種、昆虫類 64 科 150 種が確認されました。

哺乳類

中型哺乳類は、ヒノキ植林が広がる北箱根山林道周辺でノウサギとテン、周囲に農耕地や落葉広葉樹林が混じる川原ヶ谷等のスギ・ヒノキ植林でノウサギ・タヌキ・キツネ・アナグマ・ハクビシンが確認されました。また、北箱根山林道周辺のヒノキ植林内で行った小型哺乳類捕獲調査では、ヒメネズミのみが確認されました。

ヒノキ植林内は哺乳類の餌となる草や小動物が少なく、哺乳類にとって棲みにくい環境になっているものと思われます。ネズミ類ではヒメネズミのみ確認されましたが、本種は長い尾を使って上手に木に登り、樹上で餌を捕ったり巣を作ったりすることができるので、地表に餌が少ないヒノキ植林でも生息することができるのかもしれませんが。

鳥類

高さ 10m 前後のヒノキ植林内は、木と木との間隔が狭く、下草も少ないなど環境は単調で、鳥類はあまり見られませんでした。鳥類は単調な林の中よりも林道の周辺で比較的多く、ヒヨドリ・シジュウカラ・ホオジロなどの市内の広い範囲に生息する種類がよく見られました。冬季には高標高にある北箱根山林道沿いのヒノキを主とする植林地と、低標高にある徳倉のスギ・ヒノキ植林地で調査を行いました。生息する種類・数ともに徳倉の方が多い結果となりました。

は虫類・両生類

は虫類ではオカダトカゲ・カナヘビ・タカチホヘビ・アオダイショウが確認されましたが、いずれも人工林周辺で確認されました。

両生類ではハコネサンショウウオ・アズマヒキガエル・ツチガエル・タゴガエルが確認されました。これらの多くは落葉広葉樹林同様に、林内ではなく林内を流れる沢や林縁部、道路上で確認されました。人工林内をどのように利用しているのかは詳しくわかりませんが、餌となる昆虫類などが多い林床植生⁽⁸⁾豊富な林や、腐植⁽⁴⁾が多く土壌動物の豊富な林を生息地として利用していると思われます。人工林に生息するは虫類・両生類は落葉広葉樹林と同様であると思われますが、生息密度は林の状況、地形、土壌状況などで異なっていると考えられます。

昆虫類

採集された昆虫類の多くは、ヒノキ植林内よりも林縁に生えている植物から確認されました。ヒノキ植林内は薄暗くて下草が少なく植生⁽⁸⁾は単純になっており、多くの昆虫にとって生息しにくい環境となっていました。林縁部でオナガアゲハ・カラスアゲハ・ジャコウアゲハなどのアゲハチョウ類が確認されたほか、ヒラタハナムグリ・ツマキアオジョウカイモドキ・アオハムシダマシ・コフキゾウムシ・クビナガムシなどのコウチュウが多く確認されました。夜間の調査ではオオスジコガネ・スジコガネ・イノウエスジコガネ・サクラコガネ・ヒメコガネなどコガネムシ類が多く確認されました。また、地表を徘徊するコウチュウ類のルイスオサムシやアズマオオズアリなどのアリ類が確認されました。

ヒメネズミ



体の長さが 72 ~ 100mm、尾の長さが 75 ~ 110mm 程の尾の長いネズミです。植物の種子や昆虫類を主な餌にしています。夜行性で、地上と樹上で活動します。樹洞等に落ち葉を詰めた巣を作ります。

【撮影：2002/2/27 北原菅】

コアオハナムグリ



体長 10 ~ 14mm のコガネムシの仲間です。春から秋にかけて花に集まり、花粉を食べます。スギ・ヒノキ植林地での調査では、林縁で見られました。

【撮影：2002/9/25 暮ヶ沢】

チョウセンカマキリ



体長 60 ~ 82mm のカマキリです。水田や草地で、晩夏から秋にかけて成虫が見られます。肉食性で鎌状の前足を使って他の昆虫を捕まえて食べます。スギ・ヒノキ植林地での調査では、林縁で見られました。

【撮影：2002/9/25 暮ヶ沢】

イノウエスジコガネ



体長 15mm 程のコガネムシの仲間です。伊豆半島及びその周辺に特徴的な種です。光に集まる習性があり、調査でも多数の個体が集まってきました。スギ・ヒノキ植林地の林縁にすんでいると思われます。

【撮影：2002/8/2 暮ヶ沢】